

Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.11 英語担当 松下さん

◆なぜ医療通訳者になった？

住んでいる地域でコミュニティ通訳（医療）養成コースを受けたことがきっかけになります。このコースを知る前のことですが、海外旅行中に転倒し、頭の怪我でX線検査を受けたことがありました。日本とは勝手が違い、とても心細かった思いをしたことから、医療通訳の必要性を身をもって体験しました。今では、Medi-Wayの遠隔通訳をはじめ、同行通訳では市の認定通訳士として拠点となる病院での通訳、また、大阪府下の病院や保健所等へも活動の場を広げています。



◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

救急搬送されたICUの患者様のことが印象に残っています。通訳内容は麻酔と手術の説明でしたが、同意書に署名した後に「急いで来日する妻のために緊急ビザ申請の手伝いを…」と頼まれました。お手伝いして分かったことは、その患者様は臨床で来日された心臓外科医で「今日が誕生日…職場で祝ってもらえるはずだった。」とか。そのとき、執刀医と麻酔科医が「素晴らしい手術を僕たちがプレゼントしますよ！」と。通訳もチームの一員になった嬉しい瞬間でした。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

なんといっても正確性、公平性を心がけています。遠隔通訳は、接続後すぐに通訳が始まるため、瞬時に状況を理解することが難しい場合がほとんどです。内容が深刻なこともありますので、相手の文化に寄り添えるよう心がけています。また、通訳技術の強化にも日々努め、新しい医療情報に関心を寄せたり、医療関係の動画を見ながら、聞き取りやリテンション、クイックレスポンスのトレーニングを行っています。

今月のトピックス

世界の「こども事情」



前回から引き続き「世界のこども事情」を通訳者たちに話してもらいました。

英語：日本との違いという点では、「親が付き添わない登下校」が信じられません。アメリカでは中学生くらいまで登下校は必ず誰かと一緒に、細い道は通らないようにします。もっとも犯罪が日常化しているというのも困った実情ですが。

スペイン語：スペインでは夏は夜10時くらいまで明るいので、その時間でも公園で家族と遊んでいる子どもをよく見かけますよ。またアルゼンチンには子ども向けのディスコがあって、13才から18才くらいの子たちが行きます。終わると迎えに行く親もいて、まったく公認の遊びです。

ポルトガル語：ブラジル都市部の通学風景と言えば、小学生が教科書の入ったキャリーケースをコロコロ引いて歩く姿がよく見られます。でも基本的には車での通学ですね。

ベトナム語：ベトナムでも子どもの通学は親がバイクや車で送り迎えするのが普通です。3才未満は保育園に通うよりも祖父母やベビーシッターさんが見るのが当たり前です。

中国語：中国でも、夫婦は共働きが当たり前なので、子どもが小さいうちは祖父母が育児の主役です。下校時にはじいじ・ばあばで大渋滞になるので、都市部の学校では下校時間をクラス毎に電光掲示板で知らせる所も！また「坐月子」と言って、産後の1ヶ月は産婦は身の回りのこと以外何もしてはいけないという風習もまだ色濃くあります。

ポルトガル語：お産と言えば、ブラジルでは帝王切開が多く、全出産の50%以上です。

ちょっと一言 それって何て言うの？

「体調はどうですか？」



英語「How are you feeling (today)?」

中国語「您感觉身体怎么样？」
(ニンガツジ ユイ シェンティゼンマヤン?)

ベトナム語「Tình trạng sức khỏe của bạn thế nào？」
(ティンチヤン スックホエ クワパソテナオ?)

スペイン語「¿Cómo está de salud？」
(コメ イスタ デ サル?)

ポルトガル語「Como está se sentindo？」
(コメ イスタ センチント?)

「こども事情」から「お産」まで話は尽きるどころを知りません。もし何か気になる話題があれば、どうぞ皆さんからもリクエストしてくださいね。

